

埼玉アートシアター通信

NO. 30

SAITAMA ARTS THEATER PRESSES

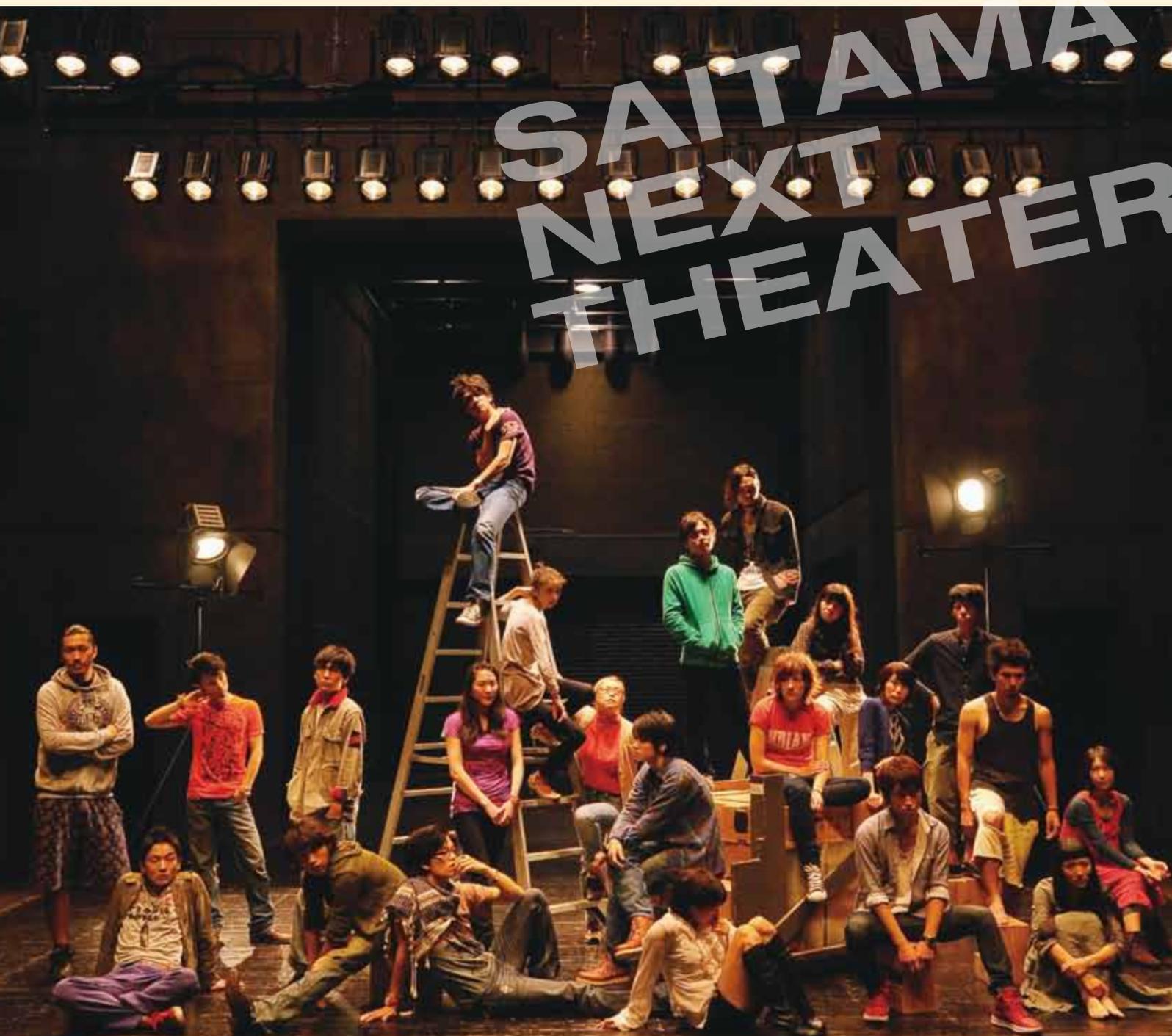
2010.11-12月号

【NINAGAWA 千の目^{まなざし}】

落語家

彩の国さいたま芸術劇場 芸術監督・演出家

笑福亭鶴瓶 ✕ 蜷川幸雄





彩の国の新しい風“さいたまネクスト・シアター”、泥まみれの序章『真田風雲録』から1年。第2章は大正期を「死ぬほど生きた」若者たちの志と情熱を描く『美しきものの伝説』。「出る杭は打たれる」のか、祭りは始まるのか。

INDEX

ESSAY

さいたまゴールド・シアター
『聖地』——岩井秀人 03

TALK

NINAGAWA 千の目^{まなざし} —— 笑福亭鶴瓶×蛭川幸雄 04

PLAY

維新派 〈彼〉と旅をする20世紀三部作 #3
『台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき』
松本雄吉インタビュー 07

PLAY

さいたまネクスト・シアター
『美しきものの伝説』 10

DANCE

コンドルズ 埼玉公演2011 新作
『ロングバケーション』 12

MUSIC

埼玉会館ニューイヤー・コンサート
飯森範親 インタビュー 14

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ
Vol.14 アルクセイ・ゴルラッチ / Vol.15 エフゲニー・スドビン 16
2007-09年度の出演者の近況 18

REVIEW

2010.9-10月の彩の国のアーツ 19

EVENT CALENDAR & TICKET INFORMATION 20

THEATER BRIDGE 23

劇場に集う、劇場で働く 音響【技術スタッフ】 24

表紙:さいたまネクスト・シアター Photo:tarō 編集:佐藤 優 デザイン:Yellownotes inc.
© (財) 埼玉県芸術文化振興財団 Published on 15.November 2010 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation
※掲載情報は、2010年11月5日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。



【作】松井 周 【演出】蛭川幸雄 【出演】さいたまゴールド・シアター 熊澤さえか 手打隆盛 松田慎也 堀 文明 9月14日(火)~26日(日) 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール © 宮川真子

さいたまゴールド・シアター第4回公演『聖地』 2010年9月23日

岩井秀人



いわい・ひでと◎俳優・劇作家・演出家。2003年ハイバイを結成。2007年より青年団演出部に所属。東京であり東京でない小森の持つ「大衆の流行やムーブメントを憧れつつ引いて眺める視線」を武器に、家族、引きこもり、集団と個人、個人の自意識の渦、等々についての描写を続けている注目の劇団ハイバイの主宰。2011年1月ハイバイ「投げられやす」石きこまはアトラ劇場で上演す。
http://hi-byenet

舞台は近未来、老人が自分で自分の命を絶つ権利を与えられた世界。怒れる老人達が、老人ホームを占拠する。「死ぬ権利」を認めないということはつまり「俺たちはまだ死んじやいけない。または死にたくない」という主張になるわけだが、その最大のモチベーションとなるのが往年のアイドルの存在だ。松井さんらしい。「アイドル」であった「キノコ」は別の老女に乗り移り、老人達を誘導していく。国家を疑ったモノがあげくのはてにたどり着いたモノの提示がやはり、「集団意識のフリ」であることの悲しささたらない。

すれ違い続ける登場人物の描き方は松井さん特有の冷淡さだが、蛭川さんの演出で、そこに後悔や、懺悔や、いまだ消えきらない希望のようなモノが残る。この時点で、この作劇と演出の組み合わせの使命を果たしている。

カーテンコールでほぼ全員が出そろった中、最後に三人の出演者が舞台上に上がる。その中の一人が、足が悪いのか、歩くのが他の二人より遅い。「誰かがささえて舞台に連れて行くのかな」と思いつつ見ていると、他の二人はそのままカーテンコールの列に加わり、振り返り、全員でその一人を待つ。ほほえましくもせず、ただ彼を見つめている。「俺は一人でける」「彼は一人で来られる。自分の足取りで、彼は来ている」というだけのことが舞台上に響く。ゆっくりと、気後れすることもなく最後の一人は自分の足取りでカーテンコールに混ざり、終幕となる。

生きるという言葉は、戦うという言葉なのかも知れない。「殺す側」に立ちたくないという一点で、我々の味方は「殺される側」となる。我々の仲間が、次々に殺されていく世界で「私はここにいます」という戦いなのだ。

NINAGAWA 千の目

毎日テレビで見ない日はないほど、超売れっ子の笑福亭鶴瓶さんが今回のゲスト。彩の国さいたま芸術劇場大ホールでたっぷり1時間、戸惑う蜷川さんを巻き込んで2人は座らずにマイクに向かって、漫才ならぬ、公開トーク。その話芸に蜷川さんもたじたじの場面もあり、満員の場内をおおいにわかせた。

Photo: 宮川舞子

何で9時間もの芝居をしてしまうの？ お客さんのほうも変態だと思いますよ

蜷川(以降N) きょうは天才を呼びます。どうしてもお話を聞きたくて、お手紙を差し上げました。鶴瓶さんです。(拍手)

鶴瓶(以降T) どうもどうも。鶴瓶でございます。天才って、いやいやもう災いのほうの天災ですよ。(舞台上の椅子を指して) 蜷川さん、座りますか。

N はい。僕は立っていると何か落ちつかない。

T 僕は長いこと話をしていますけど、座るとゆっくりになるんですよ。それはそれでいいんですけど、立ったほうがおもしろいじゃないですか。漫才マイクみたいなのがあったら一番いいんですが、出ます？ あ、出ましたね。(舞台上に急遽、スタンドマイクが用意される)

N まずいな。まるで漫才だよ(笑)。

T 何か居心地が悪そうですね(笑)。いいじゃないですか、しゃべりなはれ。

N お客さんで扇子を使う方がいらっやいますね。あれはお話をしている気になりませんか。

T 気にしたらもうすべてが気になりますから、全然ですね。何でもあります。

N 僕は気になって、客席が対面式の芝居をやったとき、反対側のお客さんがしょっちゅうパタパタとやっているの、そばに行くと、「ちょっとすみません、扇子は使

落語家

笑福亭鶴瓶

わないでください」とお客さんに注文をつけたことがあります。

T 演出するときは、ここはこうしろとか役者にいろいろ言うてるわけでしょう。若い役者とか。僕もそうですけど、やっぱり怒られたいんですよ。

N うそだ。

T いやいや、本当ですよ。でも、蜷川さんは愛されるでしょう？ ガーッと怒っていても、何か愛されるんですよ。どこかこい

つにちょっと怒られたいというか。

N いいえ、憎まれています(笑)。

T この前、『コースト・オブ・ユートピア』という9時間の芝居がありましたね。何であんな芝居してしまうの(笑)。あれを観に行く人たちがまたすごいわ。僕は堪忍して言うて、それだけは観に行くのを断りましたよ。9時間なんてもう変態じゃないですか。お客さんのほうも変態だと思いますよ。9時間ずーっと観てるんですよ。



「やっぱり立ってしゃべるのもいいでしょう」(鶴瓶)



「何かきょうは僕が演出されましたね」(蜷川)

彩の国さいたま芸術劇場 芸術監督・演出家

蜷川幸雄

N 何か楽しいみたい。舞台の休憩時間にみんなで一緒にご飯を食べたり。

T それはすごく大事なことで、昔、歌舞伎は通しで朝から晩までやっていたから、丁稚でもみんな、ちょっと抜け出して観に行くとかそういうのがあったけど、今はもうみんな忙しいじゃないですか。それを9時間も劇場へ来さしたり、見さすということは、すごいことだと思います。でも、ちょっと自信はあるでしょう。俺は9時間

でも、来たものには損はさせないという。

N あると言わないと(笑)。

T 1カ月間も劇場に芝居をかけていると、人が来るのか来ないのか、心配でしょう。

N そうですね。入っていればそりゃうれしいです。

T やっぱり口コミで来るんですか？ ここまで来る、いや、ここまでと言うと失礼ですけど、さいたまのここに来るんですよ(笑)。ここまで足を運ばすんですよ？ 何で

やろうと思います。『ムサン』でも僕はここに観に来たんですから。ありがたいと思ってるんですか？

N はい、思っています(笑)。だからお客さんへのお礼として、鶴瓶さんに来てもらいました。

T そんな僕関係ないじゃないですか(笑)。僕もここに観に来てるんですから(笑)。でも蜷川さん、何ほ元気や元気やといっても、えらい齢でしょう。普通なら、74歳だと公園を歩いておこうとか、足腰を丈夫にするために歩いて、夜は9時ぐらいに寝ますという生活ですよ。

N 昨日まで大阪にいました。一昨日の夜に『ガラスの仮面』の初日を開けて、帰ってきました。

T そうですか。大阪弁はおもしろいでしょう。

N 同じ言葉を使っても、大阪弁を使う人のほうが上手に聞こえますね。東京の言葉はニュアンスがない。細かい、波が少ない、ぶっきらぼう、平板に聞こえます。

T ごまかしやすいんですよ。今回、ハリウッドのアニメ映画で『怪盗グルーの月泥棒3D』の主役の声をやったんですが、アニメの口に大阪弁を合わせなあかんんですよ。アニメはごまかせないですよ。大阪弁は、セリフの前に間をあけたり、ちょっと笑うんですよ。すると間が計れてごまかせるのに、アニメのおっさんの顔は笑ってないんですよ(笑)。だから合わない、ごまかしようがないんですよ。あれは難しかったですね。

維新派が再びやってくる

「台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき」が、彩の国に登場する。精錬所の廃墟がまるごと舞台美術になった犬島公演から、緊密な劇場空間での公演へ。もうひとつの維新派を体験できる格好の機会だ。

維新派 〈彼〉と旅をする20世紀三部作 台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき

When a Gray Taiwanese Cow Stretched



第一部 [nostalgia] photo:清水俊洋

芸術監督・蛭川幸雄をも驚愕させた維新派。

僕は、松本雄吉さんと維新派のファンです。大阪の南港で、はじめて維新派の舞台を観た時に、その素晴らしさに圧倒されました。僕にはこのような作品はとうてい演出することはできません。その固有の美しい舞台をぜひ多くの皆さんに観ていただきたいと思っています。他の演劇とはまったく違った新しい劇的な体験をさせてくれると信じています。

蛭川幸雄



年間100席はやらないと落語はよくなる 一番嫌やと思われている人のところで『子別れ』を覚える

N 落語家の方で、俳優としてもうまい人はなかなかいません。でも、鶴瓶さんはうまいと思います。落語家の方は、落語のときも何やっているときも、1人でいつもいろいろな役をやっているから、こういう対談のときに、何か自然ではないように思いますが、鶴瓶さんにはそういうのがないですね。

T 僕は松鶴師匠のところに入りましたが、ずっと稽古をつけてもらえなかったんですよ。それはそれでまあええかと。いや、もちろん落語はしたいですよ。だから落語もやってきましたけど、そんな本格的ではなくて、頼まれたら一つのネタを覚えてポンと入って、変な話、そこはそこでバラエティで慣れてますし、お客さんは笑いますよね。でも、それはなんぼネタがあっても、1回ずつの捨ててみたいものです。次につながらないんですね。

あるとき小朝さんから、枝雀師匠も志ん朝師匠も亡くなって、大阪も東京も落語の火が消えているというので、落語をやってくれへんかと言われました。それも国立劇場で、『子別れ』と『化け物使い』という噺を指定され、ずっと断ってたんですけど、もうええわ、やりましょう、1回だけやりますと。

やるとなったら必死になりますよ。初めて東京で落語をしますから、これはどない

かせなあかんと。『子別れ』を覚えようと、桂文紅という大師匠のところへ尋ねていきました。あまりしゃべったことないし、多分僕のことを嫌いというか、昔からマスコミに出てる落語家が嫌いだという先入観がありました。あえてそこへ行こうと。一番嫌やと思われている人のところに行くと、一番底辺から入れますから。毎週土曜に通って、ようやく高座にかけていいと言われてもらいました。それからずっと僕が『子別れ』をやるときには、舞台横でメモしはるんですよ。でも何も言わないんですよ。師匠が言うまではこっちは聞けないですから、「ありがとうございます」と。そしたら、だんだん好きになってくれはって、2月の寒い日、師匠の会があって、僕は中とりで『子別れ』をやったんですけど、その会場は舞台袖がなくて、師匠は雪が降っている外で立って聴いてくれてたんですよ。終わった後、雪の中で「オーケー、よかった」と言ってくれたんですよ。感動しましたよ。こんな僕をあまり好きだと思ってなかった人が、ずっと聴いてくれはって、最後は「よかった」って言うてくれたことが自信につながるんですよ。だから、役者も蛭川さんに「いいよ」と言われたら、ものすごい自信になる。

N たまに言いますけど。「おまえなんか死んじゃえ、存在が許せないんだよ」なんて言葉ばかりです(笑)。

T うちの師匠は「もう頼むさかい。やめてください」と言うんです。一番怒られるときは敬語を使われるんですよ。「お願いします」と。ガーンと怒られるよりこれが一番つらいですね(笑)。今は落語をやるようになりましたけど、タクシーに乗っても「落語はせいへんやろ」とかずっと言われ続けてきたんですよ。志の輔さんや小朝さんなんか、年間300席するんですよ。僕はその当時、7席ぐらい。向こうはイチローで、こっちは阪神の川藤ぐらいですよ(笑)。レギュラー番組を今8本やっていて、去年は74席しかできませんでしたけど、今年は100席いきます。やっぱりそれぐらいやり抜かないと、よくならないですね。今せえと言われてできる落語がこれまで7本ぐらいしかありませんでしたけど、今は43本あります。

N それはもう完璧に覚えているの？
T 覚えているというか、自分の中に入っているというのが17ぐらいで、できるというのは43本あります。落語は何で忘れないんでしょうね。映画のせりふはもう忘れしましたよ。

N 僕は演出プランをすぐ忘れます。
T それはそうですよ。ぎょうさんやるでしょ。日本で初日をあげたと思ったら、イギリスに行っているとか。一体どんな老人ですか。

N いやいや、ボケ老人。何かきょうは僕が演出されましたね。

T でも、やっぱり立ってしゃべるのもいいでしょう。

N (笑)。ありがとうございました。

(2010年9月4日 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール)



笑福亭鶴瓶 Shofukutei Tsurube

落語家。1951年生まれ、大阪府出身。1972年に6代目笑福亭松鶴に入門。以降、テレビ・ラジオを中心に活躍し、現在は、『A-Studio』(TBS系)、『ザ!世界仰天ニュース』(NTV系)、『鶴瓶の家族に乾杯』(NHK)などラジオ・テレビを合わせて8本のレギュラー番組をもつ。また近年は映画『ディア・ドクター』『おとんと』などでの演技力が高く評価され、魅力的な俳優としての一面もみせる。現在公開中の映画『怪盗グルーの月泥棒3D』では、声優にも挑戦している。

松本雄吉に聞く 20世紀三部作の 最終章に向けて

取材・文：鈴木理映子 [演劇ライター] photo: 宮川舞子



大掛かりな装置と独特のリズムにのせて唱和されることは、細かく組み立てられた体操のような振付のダンスが重なり合い、やがてひとつの「風景」が立ち上がる。南米大陸を舞台に激動の時代を生きる日本人移民の姿を描き出した「〈彼〉と旅をする20世紀三部作」第一部『nostalgia』から3年。同シリーズの最終章を携えて、維新派がふたたび彩の国さいたま芸術劇場にやってくる。三部作の象徴、身長4mの〈彼〉と共にたどり着いた旅の終着点・アジア。そこに広がる眺めとは――。

――これまでの旅を振り返りつつ、アジア篇の軸となるテーマを教えてください。

第一部と第二部の出発点は映画だったんです。もともと僕は映画ファンみたいな人に芝居を観てもらいたいとも思って。映画を引き合いに出せば、作人同士の共通言語もできるし、お客さんにも芝居の後でそれを観てもらえることができるでしょ。それで第一部は『モーターサイクル・ダイアリーズ』と『ラテンアメリカの光と影』、第二部はアンジェイ・ワイダの映画からイメージを広げた。ところが第三部になったら、20

世紀のアジアを描いて、僕らの記憶に残ってる映画がなかなかないんですよ。東京の芝居ならそこで満州や上海を扱うことが多いですけど、僕はそれとは違うものをやりたかった。で、それなら海からアジアを見てみたらどうかということになったんです。僕は以前から「海の路」というモチーフを取り上げてきてますよね。考えたら大東亜戦争、太平洋戦争っていうのは、その、黒潮の流れの中で行われている。こういう認識で芝居が作られたことはこれまでないでしょう。

――「海の路」は東シナ海に古くから続く交易ルートです。なぜ松本さんはこの題材に関心をもたれたのでしょうか。

僕は天草の出身なんですけど、住んでる時は感じなくても、大阪に出たらやっぱり「ああ島の出身だな」と意識するようになったんです。それである程度年をとったころに、この「海の路」という言葉を覚えて。僕はそのルートを大阪へ北上したけど、南下するとどうなるだろうと考えてみた。そこから、島から島へと移動する「渡りの路」が、僕自身の身体性を伴った具体的なイメージ

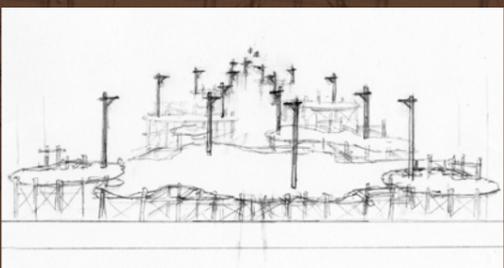
として立ち上がってきたわけです。

――今回は沖縄から台湾、ミンダナオまでかなり広い範囲にわたって、戦時下を生きる人々のエピソードを取り上げられていますね。

このホンを書くときに台湾のキールンという町の港まで取材に行ったんですよ。そしたら波照間島や尖閣諸島なんかははっきり目に見えるんです。ということは逆に沖縄からは台湾が見えて、フィリピンまでが視野に入ってくるんじゃないかと。だけどちょっと海に足をつけるだけで、人間ってこれだけのことをイメージできるんだなあと思いましたよね。ひょっとしたら芝居ってそんなもんかもしれないです。たとえば「宇宙」って言葉がありますが、自分の家に窓があって空や星が見えるから「宇宙」を捉えられるんじゃないのか。つまり演劇っていうのは、生身の人間が目の前にいる、その息遣いを頼りに不可視なものを可視化していく芸術なんかだと。

――今年の7、8月に行われた犬島公演は、戦争を描きながらも「人の営み」の愛おしさ

14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31



↑ スケッチ
犬島公演の舞台美術を担当した黒田武志氏 (sandscape) によるデザイン画。島と島に近い多島海をイメージに、手前に本舞台があり、奥に小さな島々に見たてた舞台が連なっている。

← 脚本
維新派の脚本は、楽譜を読むように、縦ではなく横に読んでいく。「・」は拍数で、「▲」は半拍休みを表す。単語をリズムにのせるだけではなく、感情や状況が伝わるよう、強弱やイントネーションを変えて発語している。



Photo: 井上和

を感じさせるものでした。20世紀的なスピード感だけではなく、古くからの歴史の流れがそこにあるような……。

時代設定も行ったり来たりしてますから。1930年代の後に1900年代の話をした。やっぱり時系列だけでやると「日本の侵略の物語」みたいになってしまうし。また、取り上げたエピソードも、今は何の痕跡も残っていないものばかりなんです。だからまずは個人的なレベルでサイパンやフィリピンへ移民して、なんらかの足跡を残そうとする人たちの姿のリアリティがあって。そこに飛び石感覚の時間のねじれが合わさって、「それでも何も残らないんだ……」っていう実感を強めるところはあるかもしれません。

――とはいえ、実際の島での公演と今度のさいたままでの劇場内での公演は、また違った感触のものになりそうです。

野外でやったものを劇場に封じ込めるのは初めてなんです。犬島ではでかい流木が漂着したっていうイメージで舞台を作りました。今度はそれを室内にもってこることで、博物館のオブジェみたいな、より風化した感じが出せたらいいなと思ってんです



松本雄吉
まつもと・ゆうきち

1946年熊本県天草生まれ。大阪教育大学で美術を専攻。1970年維新派を結成。1974年以降のすべての作品で脚本・演出を手がける。1991年、東京・汐留コンテナヤードでの巨大野外公演「少年街」より、独自のスタイル「チャンチャン☆オペラ」を確立。あくまで野外にこだわり、近年は観客とともに旅をする「漂流」シリーズを企画。奈良・室生、岡山の離島・犬島などで公演を行う。2002年「カンカラ」で朝日舞台芸術賞、2005年「キートン」で読売演劇大賞演出家部門優秀賞、2009年「呼吸機械」で朝日舞台芸術賞と平成20年度芸術選奨をそれぞれ受賞。2000年オーストラリア・アデレードフェスティバル、2001年ヨーロッパツアー、2005年南米ツアー、2009年オセアニアツアーなど海外からの招聘も多数。

維新派とは――

かつて吉本ばななさんが「松本雄吉さんよ！」というエッセイのなかで「[CUT] 1996年3月号)、維新派・松本雄吉が日本に存在すること自体が奇跡であり、希望であると述べていた。例えば「あまりのすごさに、ほめるのもばかばかしいくらいだ。私なんかはほめようとほめまいと、今日も彼は日本の正しいおっさんの姿で、実はあのすごい舞台のことを考えたりしながら飲んだりしているのだろうし……」。

1970年、大阪を拠点に「劇団日本維新派」として結成されたのが、その始まりだが、公演の場を野外に求め、演劇という枠組みでは語れない間口の広がり、実験性、巨大な空間をもねじらせる装置と音楽のエネルギーで、観る者を圧倒する。通常は、野外に劇団員自らの手で何カ月もかけ巨大劇場を建築し、「チャンチャン☆オペラ」と名付けた関西弁のイントネーションを生かした変拍子のリズムを駆使した台詞と器械体操のような独特の振付をもって、演劇的な総合芸術性を体現する舞台を生み出してきた。どの点においても、世界的に類を見ない集団で、あらゆる場所に出入り、風景をも巻き添えにした手法は国内外から注目を集めている。今回のさいたま公演では、3年前と同じく、大ホールすべての舞台機構を活かすべく、野外の空間性をもちこみ、犬島公演とはひと味違った新たな世界を拓く。

<http://www.ishinha.com/>

〈彼〉と旅をする20世紀三部作 #3 『台湾、灰色の牛が背のびをしたとき』

日時：12月2日(木)～5日(日)
会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
作・演出：松本雄吉 音楽：内橋和久
チケット(税込)：好評発売中
一般：S席 5,000円 / A席 3,000円
メンバーズ：S席 4,500円 / A席 2,700円

	12月	2	3	4	5
曜日	木	金	土	日	
13:00				●	●
18:00				●	
19:00	●	●			

ネクスト・シアターが新たな伝説をつくる

SAITAMA NEXT THEATRE

あれから1年。
《さいたまネクスト・シアター》は、読み合わせ稽古で
早くも蜷川幸雄の叱咤が飛ぶなかで、
1960年代の傑作戯曲『美しきものの伝説』に必死に取り組んでいる。
2010年、新たな伝説が彩の国で生まれるか。

文：徳永京子 [演劇ジャーナリスト] photo: 宮川舞子

「なぜ、この演目を選んだのですか？」
公演前の演出家にインタビューする際の、基本的な質問のひとつだ。だが、すべての演出家が周到に答えられるわけではない。自ら演目選びにこだわる人なら、情熱的な回答を用意しているが、プロデューサーや劇場から提案された演目に乗る演出家も多く、その場合、この質問は機能しない。
意外かもしれないが、蜷川幸雄は後者だ。もちろん、自発的に演出したいと熱望する(した)戯曲はたくさんあるが、年に8~10本のハイペースで何年も走り続けていれば、そこにこだわることは枯渇につながる。蜷川は、驚くほどオープンに多くの人の意見を受け入れ、勇気ある雑食ぶりで、かつて自分が苦手だと敬遠していた戯曲をも咀嚼



し、飲み込み、消化してきた。

だが、これこそが大事なことなのだが、そのオープンさと勇気の根底には、野性的な鋭い直観と、膨大な知識と経験に裏打ちされた体系的戦略が、確実に存在している。だからこそ蜷川には、雑食ではあっても悪食家のイメージがない。キャリアを重ねるほど感性は鮮度を増しつつ、核にある美意識は色濃く統一されていく。だから、改め

て考えなければならない。さいたまネクスト・シアターの第2回公演は、なぜ『美しきものの伝説』なのか？

この質問に対する明確な蜷川の回答はない。ただ、「研究発表ではなく公演として上演する」、つまり一定以上のクオリティを保証するという覚悟を語るばかりだ。だとすれば、答えは蜷川の行動から探すしかない。そこで考えたのは、ネクストから先んじてること3年、同じ彩の国さいたま芸術劇場がスタートさせた高齢者の演劇集団、さ



さいたまネクスト・シアター 第2回公演 『美しきものの伝説』



さいたまネクスト・シアター 第2回公演『美しきものの伝説』

日時：12月16日(木)~26日(日)
会場：彩の国さいたま芸術劇場 インサイド・シアター(大ホール内)
作：宮本 研 演出：蜷川幸雄
出演：さいたまネクスト・シアター／原 康義 横田栄司 飯田邦博
チケット(税込)：好評発売中
全席自由 一般 3,800円 メンバース 3,500円
※開場は開演の30分前 ※大ホール舞台上の特設客席のため、客席及び椅子の形状が通常とは異なりますのでご了承ください。客席形状が決定次第、ホームページhttp://www.saf.or.jpにてお知らせ致します。

12月	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
13:00											
18:30											

『美しきものの伝説』とは——

明治は45年、昭和は64年、その間にはさまった大正はわずか15年と極端に短い。しかし短いわりには“ベル・エポック”“大正デモクラシー”“大正ロマン”などと形容されるように、社会は貧しくも新しい文化が開花した時代。その大正期に、理想のために、夢のために、そして愛のために、死ぬことまでできた愚かしくも美しい人間たちがいた——。大杉栄、伊藤野枝、島村抱月、小山内薫、中山晋平ら、実在の人物をモデルに、1968年に宮本研が書き下ろし、初演の舞台は時代の空気とあいまって、伝説の舞台として語り継がれている。

集団には、生々しい現代の言葉と、現代社会と絡み合った過激な行動を。平均年齢26歳の若者集団には、現代では使うことのない日本語と、史実を伴奏にした人間のドラマを——。とすれば、蜷川の直観が示す方向は明らかだろう。自分の世代にとっては未知の感覚を、演劇を通して役者に、さらには出演者によって自ずと層が決まる観客に、深く体験してもらうこと。それがネクストとゴールドを併設した芸術監督が目指すものではないか。



いたまゴールド・シアターのことだ。蜷川は、ネクストとゴールドを対だと公言している。ゴールドといえば、大好評を博した今年9月の『聖地』が新進気鋭の松井周、その前がケラリーノ・サンドロヴィッチ、第1回公演は岩松了と、現代演劇界の先端を担う人気劇作家が新作を書き下ろしている。それに対してネクストは、ちょうど1年前の第1回公演が、福田善之が1962年に発表した『真田風雲録』。そして今回の『美しきものの伝説』は68年に発表された宮本研の戯曲と、現代演劇ではあるが、ネクストのメンバーは生まれてもない時代のもの。しかもどちらも、日本の激動の歴史を切り取っている点が共通している。

つまりこうだ。平均年齢71歳の高齢者



いけないんだ」という役者への叱咤だった。蜷川は演劇を、深い実感を伴って未知の時間や場所に触れられる、豊かな表現だと信じているのだ。その時空の射程がどんなに広がっても確実に実現できる役者をひとりでも多く輩出するために、おそらくネクストはある。

今年初め、蜷川の決断でネクストは半数になった。残ったメンバーは、実人生にならない戯曲の時間軸を体内に宿らせることができるだろうか。その可否が「なぜ『美しきものの伝説』なのか？」の答えを観客ひとりひとりが発見できることにつながる。



彩の国さいたま芸術劇場改修前の大一番 これを読んだら観ずにはいられない

コンドルズの人気七不思議

待ちました、超人気のコンドルズ、5度目の埼玉公演。タイトルも『ロングバケーション』と決まった。あとは新春めでたい1月の舞台を待つばかり、その人気の秘密を解剖した。

1 コンドルズには コンドルズのやり方がある

ロックが好き、芝居が好き、ダンスに興味があるわけじゃない、実はそんなメンバーもいる。ふだんは、ほかのカンパニーの振付、海外作品・バレエ・舞踊への客演、テレビの「かくし芸大会」やコンサート、ミュージカル、映画の振付や小説の執筆、インディーズ映画の脚本、大学や予備校、ヨガの講師、バーのマスター、古着のバイヤーなど多士済々のアーティストックな、集団とは呼べない“ゆる〜い集まり”。それぞれ舞台外の仕事が増えていくなか、メンバーはコンドルズとして集結し、コンドルズのやり方を変えないで歩みは続いていく。

1

2 コンドルズは 学ランを脱がない

今や大学生で学ランを着ているのは応援団ぐらい、高校生だって珍しいのに、コンドルズは頑として脱がない。舞台上で学ランで乱舞する。1996年の『太陽にくちづけ』が男子校の設定で衣裳として着用して以来、彼らのトレードマークとなり、40代になった今も着続けている。“いつまでも青春”なんていう安っぽい言葉でくれない、本気で遊ぶコンドルズの本領がこんなところにも表れている。

2

3 コンドルズは 映像も楽器演奏も大好き

もしかしたらダンスより好きかもと思わせるほど、その舞台上に投影される映像(もちろん自分たちで撮影・製作)は魅力的で、コンドルズの舞台を際立たせる。演奏もメンバー有志によりバンドプロジェクト「ストライク」(THE CONDORS改め)を組むほど本格的だ。観客を楽しませるためには、自分たちの持ち駒はすべて使うぜ、という潔い心意気がここにも見られる。

3

4 コンドルズに 人形劇や影絵がつきもの

コンドルズの舞台は、気軽に友達を誘える強さがある。とりあえず笑えるから。ダンス以外の要素を入れることでダンスなんて観ないという層を惹きつけ、結果としてダンスの裾野を広げた。埼玉公演では“ニナガワさま”なる影絵も登場した。わかる人はわかるよね、あのニナガワさま。観客も巻き込んだの大合唱は圧巻だった。一人より一緒にやる人を増やせばもっと楽しい。観客だって客席でいつの間にか出演しているのだ。

4

5 コンドルズの舞台は 危険に満ちている

「観客をびびりさせたい」、そのために「くだらないことのオンパレード」になったと近藤良平は語っているが、その姿勢は変わらない。海外公演を重ね、「ニューヨーク・タイムズ」でも絶賛され、多くの人々がコンドルズの舞台を必要とするようになる。が、今もそれ以前も定型のない、完成を目指さない生ものの魅力とは裏腹の、危険と不安がコンドルズにはある。だったら観客もコンドルズと一緒にその不安を楽しもうではないか。

5

7

6 コンドルズに うまいダンスは似合わない

飛び抜けて優れたダンサーである近藤良平ら数人を除いてはダンスカンパニーとしては踊りもけっこう不揃いだし、脚だってそんな上がるわけじゃない。でも、それがなんなの、「うまいダンスなんてやってたまるか」。まったく新しいダンスの見せ方をコンドルズは確立した。ダンスを信じる瞬間と、ダンスをまったく信じない瞬間(そこでほかのことをやる)のバランス感覚がコンドルズにはある。

6

6 コンドルズのコントは 超二流のおもしろさ

“ダンス公演”なのに、コンドルズの観客席からは笑いが絶えない。その理由のひとつが随所に練り広げられるコントだ。なぜコント?と素朴な疑問をもつ人もいるかもしれないが、コンドルズに理屈はいらない。観る人におもしろいものを提供したい、そして自分たちも一緒におもしろがりたい、自分たちが楽しいと思うことをやっているだけなのだ。時にコントがすべったり、ドン引きもなくなりますが、それすらもコンドルズは楽しんでしまう。

コンドルズ主宰 近藤良平
「5年連続の埼玉公演に感謝をこめて
飛ばした作品をつくります」

「ボクにとってはタイトルって命綱です、内容はもちろん、Tシャツのデザインにも影響しちゃうくらい、大事なものです。お客さんもタイトルからいろんな発想をして、ボクたちと同じように遊んでほしいなあ。『ロングバケーション』からどんな連想しますか? 例えば“ロンバケ”からキムタク→SMAP→森くん→オートレースとかね、どんどん広がっていくでしょ。改修中もみなさんの頭にこびりついてるような、記憶に残る舞台にしますから、期待してください」

コンドルズ 埼玉公演 2011新作
『ロングバケーション』

日時: 2011年1月29日(土) 開演 14:00 / 19:00

30日(日) 開演 16:00

会場: 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

構成・映像・振付: 近藤良平

出演: 青田潤一 石淵聡 オクダサトシ 勝山康晴

鎌倉道彦 ぎたろー 古賀剛 小林顕作(映像出演)

田中たつろう 橋爪利博 平原慎太郎 藤田善宏

山本光二郎 近藤良平

チケット(税込): 好評発売中

一般: 前売 4,500円 / 当日 5,000円 学生 2,500円

メンバーズ: 前売 4,050円 / 当日 4,500円

ウィーンの香りがいっぱい、華やかにニューイヤー♪コンサート2011

2011年、コンサートの聴き初めは、心はずむウィーンの調べ。
ウィンナ・ワルツの傑作はもちろん、ポルカにヴァイオリン・ソロ、オペレッタの名歌など、新春を飾るにふさわしい贅沢なコンサートだ。



マエストロ 飯森範親が語る聴きどころ

取材・文：片桐卓也 [音楽ライター]
Photo: 横田敦史

2011年の埼玉会館ニューイヤー・コンサートには07年以来となる東京交響楽団が登場。ソプラノの森麻季、コンサートマスターの大谷康子がソリストとして登場し、司会に中井美穂を迎える。タクトをとる飯森範親(東京交響楽団正指揮者)にコンサートの抱負を聞いた。

「森さんは舞台の上で本当に華のある方。日本人離れたオーラがあると

思います。大谷さんはコンサートマスターなので何度も一緒に演奏していますが、今回は特に大谷さんの十八番とも言えるクライスラーの名曲を共演できるのが楽しみです。また司会の中井さんともお仕事は何回か一緒にさせていた



Column #01

東京交響楽団に伝わるシュトラウス家直伝のスコア

軽妙なリズムと優雅なメロディー、楽都ウィーンの粋を伝えるウィンナ・ワルツやポルカ。そのウィンナ・ワルツの創始者が「ワルツの父」とよばれるヨハン・シュトラウス1世(1804-49)。その長男ヨハン・シュトラウス2世(1827-70)は《美しく青きドナウ》の作曲でも有名で、「ワルツ王」として多くの方に知られています。このシュトラウス家の血をひく音楽家が、かつて東京交響楽団(以下、「東響」)と数多くのツアーを行っていたことはご存知でしたか?

「ワルツの父」の曾孫にあたる、エドゥアルト2世

(1910-69)は、1956年以来59歳で亡くなるまでの14年間、6回にわたる来日のたびに東響を指揮し、120回も数える公演をともにしてきました。シュトラウス家の遺産であるオリジナル版の楽譜を使い、日本では未紹介だった曲を披露するなど、ウィーン音楽の伝統を日本の聴衆に届けてくれました。東響では現在も、ヨハン2世の《トリッチ・トラッチポルカ》《雷鳴と稲妻》、エドゥアルト2世の《テープは切られた》や、今回のコンサートでも演奏される《アンネン・ポルカ》《観光列車》などシュトラウス家のスコアを使用しています。



ウィーン市立公園に建つシュトラウス2世像

Column #02

中井美穂がナビゲートする“ライブの楽しみ”

私は小学校くらいからロックが好きで、ピアノを習っていたものの、クラシックのコンサートに足を運んだことはありませんでした。大学生になり、NHKホールで場内アナウンスのアルバイトを大学の4年間やらせていただきました。その時、NHK交響楽団の定期演奏会をよく聴く機会がありました。「音楽の授業」で有名な楽章だけ聴いたことはあったのですが、一曲の交響曲を聴くとこんな構成となっていたのかとびっくりしたり、ベルリオーズはロックっぽいなぁと思ったら発見がありました。特に年末の「第九」は何回も聴くことができ、「得したなぁ」と思っていました。ただ、

客席で聴けるわけではなく、アナウンスをする部屋でスピーカーから流れてくる音を聴きただけだったので、いつかは生音で聴いてみたいと思っていましたね。何もない空間に人が集まり、エネルギーが満ちて特別な時間が流れ出す。何百年も前に遠い国でつくられた音や曲が、いまこの日本で私たちの目の前で生まれる瞬間と一緒に味わうことができる。それができる劇場やコンサートホールは、なんてぜいたくで刺激的な空間なのでしょう。やっぱり“生”“ライブ”で感じられることは最高の楽しみです。

中井美穂



だいています。とても華やかで楽しいコンサートになりそうです」

と飯森氏。ウィーンに縁のある作曲家ばかりの曲目は、こだわりの選曲である。「東京交響楽団が使っている楽譜は由緒あるものなんです。1950年代から客演されたエドゥアルド・シュトラウスさんから伝わったもので、手書きに近い楽譜もあるんです」

エドゥアルド・シュトラウスは、ヨハン・シュトラウス(1世)の末っ子エドゥアルドの孫にあたるシュトラウス・ファミリーの一員で、東京交響楽団に客演してシュトラウス一家の音楽を披露した。

「その客演時から伝わる楽譜を使っているに演奏している作品もあります。この楽譜は貴重なもので楽団の財産と呼べますね」

海外での経験も豊富な飯森氏。ニューイヤー・コンサートの雰囲気はどんなものなのだろうか?

「ヨーロッパはクリスマス休暇が長く、新年は普通に仕事に戻っている人も多いん

です。でも、ジルヴェスター(大晦日)から新年の1日は特別で、街角で火花をあげたり祝祭的な雰囲気がありますね。それとニューイヤー・コンサートは特別なもので、ウィーンではそこに参加するというのがひとつのステータスになっているようです。日本人の場合は、年末の『第九』で1年を振り返り、ニューイヤーで新たな気分で1年を迎える、そんな雰囲気を楽しまれている方が多いようですね」

ところで、指揮者から見たヨハン・シュトラウス(特に2世)の魅力とは?

「明るく華やかだけれど、同時に大人の哀愁というか、少し暗い影の部分も感じます。その明暗のバランスがとても素晴らしい。シュトラウス・ファミリーの中でも、やはりシュトラウス2世は音楽的な才能において抜き出ていると思いますね」

そんな大人の味わいを豪華なメンバーの演奏で楽しんで頂きたい。

埼玉会館ニューイヤー・コンサート

東京交響楽団
飯森範親(指揮) 森麻季(ソプラノ) 大谷康子(ヴァイオリン)
中井美穂(司会)

日時: 2011年1月8日(土) 開演 15:00 会場: 埼玉会館 大ホール
曲目: J.シュトラウスII: 皇帝円舞曲 クライスラー: 愛の喜び、愛の悲しみ
J.シュトラウスII: 観光列車、狩、ウィーンの森の物語、春の声、喜歌劇《ウィーン気質》より序曲
レハール: 喜歌劇《メリー・ウィドウ》より「ヴィリアの歌」
J.シュトラウスII: アンネン・ポルカ、喜歌劇《こうもり》より「侯爵様、あなたのようなお方は、美しく青きドナウ」

チケット(税込): 好評発売中
一般: S席 5,000円 / A席 4,000円 / B席 3,000円 / 学生B席 1,500円
メンバーズ: S席 4,500円 / A席 3,600円 / B席 2,700円

【指揮】 飯森範親

桐朋学園大学卒業。現在、東京交響楽団正指揮者、山形交響楽団音楽監督、いずみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団名誉指揮者、ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者。国内外のオーケストラとの間に築かれた信頼関係、これまでの着実な活動が高く評価され、渡邊暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞などを受賞。



©Yuki Hiramoto

【ソプラノ】 森麻季

東京藝術大学、同大学院独唱専攻修了。文化庁オペラ研修所修了後、ミラノ、ミュンヘンへ留学。古典から現代まで幅広いレパートリーを誇り、コロラトゥーラの類稀なる技術と透明感のある美声、深い音楽性と華のある容姿は各方面から絶賛され常に注目を集めており、国内外のオーケストラとも数多く共演。ワシントン・アワード、出光音楽賞、ホテルオークラ賞、安宅賞受賞。二期会会員。



©Yuki Hori

【ヴァイオリン】 大谷康子

東京藝術大学、同大学院博士課程修了。全日本学生音楽コンクール全国第1位。日本各地でのリサイタルや主要オーケストラとの共演、テレビ「題名のない音楽会」への出演や、東京交響楽団ソロ・コンサートマスターを務める傍ら、2005年には、弦楽四重奏団「クワトロ・ピアチェーリ」を結成するなど、その活躍は多岐にわたる。使用楽器は1708年製ピエトロ・ヴァルネリ。東京音楽大学教授。



©Yuki Hiramoto

Vol.14

ALEXEJ
アレクセイ
・ゴルラッチ
GORLATCH

PIANO ÉTOILE SERIES

PIANO ÉTOILE SERIES



音楽公演に関心のある向きには「彩の国の音楽ホールといえば『ピアニスト100』』というイメージを植え付けた、10年

にわたる名物企画の最終回を飾ったアレクセイ・ゴルラッチ。18歳で浜松国際ピアノ・コンクールに優勝後、翌夏の日本ツアーに先駆けて彩の国で初々しい演奏を聴かせてくれたのは、2007年3月のことだ。それから3年半——。この間に彼はダブリン国際ピアノ・コンクール優勝、リーズ国際ピアノ・コンクール第2位と実績を積み、着実に成長を遂げている。

確かな技巧や構成力は言うに及ばず、彼のピアニズムを特徴づけているのは、何といてもヨーロッパの伝統を感じさせる品格である。聴く者の心をいつの間にか捉えてしまう不思議なオーラも兼ね備えている。技巧をひけらかすヴィルトゥオージティ

(名人芸)で聴衆を圧倒するようなピアニストではない。

彼は演奏に際しての心構えについて、こう語っている。

「特定の作品に取り掛かる時に私が目指す最終的なゴールは、作曲家のメッセージを伝達する、ということです。ここがポイントで、演奏に私の性格が反映されることなのですが、すべての手掛かりやニュアンスを理解し、偽りのない解釈をすることを目指しています。それが、聴いてくださる人たちに強烈な音楽の経験をもたらすと信じています」

そんな彼が今回披露するのは、オール・ショパン・プログラムである。ショパンはこれだけ頻りに演奏され、愛聴されているにも関わらず、というよりもそれだけに、ピアニストの実力を露わにする怖い作曲家でもある。ゴルラッチはショパンの魅力について、こう語る。

「ショパンはユニークな作曲家だと思います。一方では彼の音楽はモダン・ピアノの技術や表現の可能性を探求し、一方ではピアニストのヴィルトゥオーゾ的な技術を要求します。ショパンは常に、すばらしく細かく、デリケートで洗練されたメロディの形を保っているのです。彼の音楽は、どのモチーフも決して音楽の背景と切り離されないのです。メランコリックな雰囲気が彼の作品に漂い、聴く者にそれが伝わる…というように、ショパンは音楽を通じて彼の魂を開示しているかのようで…」

「聴衆にとって本当の意味での“出来事”となるようなコンサートを開催できるようなピアニストになりたいです。人々の魂や心に触れる演奏ができるピアニストに、そして個人的で長く人々の記憶に残る演奏のできるピアニストになりたいです」というゴルラッチの演奏で、ショパン生誕200年の熱狂を締めくくろう。

アレクセイ・ゴルラッチ
1988年ウクライナ生まれ。ハノーファー音楽大学にてK. H. ケマーリンクに師事。2006年11月、第6回浜松国際ピアノ・コンクール第1位及び日本人作品最優秀演奏賞。これを機に一躍日本でその名を知られるようになる。彩の国さいたま芸術劇場には「ピアニスト100」シリーズに100人目のピアニストとして出演。2009年にはダブリン国際ピアノ・コンクール第1位、リーズ国際ピアノ・コンクール第2位に入賞し、活動の場を広げている。

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.14
アレクセイ・ゴルラッチ

日時：12月5日(日) 開演 15:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目：～オール・ショパン・プログラム～
ワルツ第10番、華麗なる大円舞曲 作品18、
舟歌 作品60、幻想ポロネーズ 作品61、
4つのマズルカ 作品67、同 作品68、
バラード第2番、スケルツォ第2番
チケット(税込)：好評発売中
一般：正面席 3,500円
メンバーズ：正面席 3,150円
※バルコニー席・学生席は予定枚数終了しました。

若手の実力派ピアニストを選びすぎた「ピアノ・エトワール・シリーズ」。聴衆からの熱い支持を受けて4年目を迎えたこのシリーズには、この冬、キャラクターの異なる2名の男性ピアニストが登場する。



Photo: Clive Barda

ピアノ・エトワール・シリーズ]

の15人目に登場するエフゲニー・スドビンもそんなひとりだ。無名だったスドビンによる2005年のデビュー盤『スカラッチ ソナタ集』は、「音楽的そして技術的にもスカラッチのふたりの巨匠、ホロヴィッツやプレトニョフに匹敵する。スドビンはすでに巨匠である」(『ピアノ・マガジン』誌 ダニエル・スターンス評)など、少なからぬ衝撃を欧米の音楽界に与えた。

その後の彼の活躍ぶりは飛ぶ鳥を落とす勢い、といっても良いだろう。2006年のヴェルビエ音楽祭でのリサイタルは、「デイリー・テレグラフ」紙(ジェフリー・ノリス評)で「彼を聴くどんなチャンスも捉えるべし」と伝えられ、名門ウィグモア・ホール

へのデビュー・リサイタルは「名演。彼は稀にみる感受性をもった高雅なピアニストであり、いずれの作品についても想像力豊かなコンセプトに確信を持っている」(『インディペンデント』紙 エイドリアン・ジャック評)と評されている。

一方、録音活動も目覚ましく、2005年に『スドビン・プレイズ・ラフマニノフ』、2007年に『チャイコフスキー／メトネル ピアノ協奏曲』『スドビン・プレイズ・スクリャーピン』、2009年に『ラフマニノフ第4番&メトネル第2番』、そして今年は『スドビン・プレイズ・ハイドン』をBISからリリース。いずれも高い評価を集めており、日本でも「知る人ぞ知るピアニスト」であった。

そんな彼がいよいよ来年1月、初来日を果たす。当初はすでに録音も出しているロシアの作曲家たちの作品を中心としたプログラムを予定していたが、彼は熟考のうえ、全面的なプログラムの変更を申し入れてき

た。新しいプログラムでは、まず名刺代わりのスカラッチのソナタからコンサートを始める。それに続けたのがショスタコーヴィチの「シリアスで機知に富んだ」(スドビン)プレリュード。後半はショパン、リスト、ラヴェルの性格小品を並べ、「様式の多様性とコントラストを示すことができる、多彩なプログラム」(スドビン)となった。また、このプログラムのもうひとつの意図について、彼はこう語る。

「このプログラムのテーマとして、ロマン主義時代の音楽の物語的な側面、いわゆる『標題』音楽についての探求を試みています。ショパンのバラードやラヴェルの《夜のガスパール》における物語的な要素はことさら際立っています」

ショパンのバラードは、ポーランドの詩人アダム・ミツキエヴィチからインスピレーションを受けているのではないかと考えられており、ラヴェルの《夜のガスパール》も

夭折の詩人アロイジュス・ベルトランの散文詩集『夜のガスパール』から幻想的で怪奇的な3篇を選んで作曲したもの。それらを音楽的につなぐのが、リストの《タベの調べ》、という趣向だ。

このコンサート、まさに「彼を聴くチャンス」を捉えるべしである。

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.15
エフゲニー・スドビン

日時：2011年1月22日(土) 開演 15:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目：
スカラッチ：ソナタ K.466・K.455・K.27
ショスタコーヴィチ：
(24の前奏曲) 作品34より第2・6・17・24番
ショパン：バラード第3番、同 第4番
リスト：タベの調べ
ラヴェル：夜のガスパール
チケット(税込)：好評発売中
一般：正面席 3,500円
メンバーズ：正面席 3,150円
※バルコニー席・学生席は予定枚数終了しました。

Vol.15

YEVGENY
エフゲニー
・スドビン
SUDBIN

エフゲニー・スドビン
1980年サンクトペテルブルク生まれ。同地のほか、ベルリン、ロンドンで研鑽を積む。2005年のCDデビュー(スカラッチ作品)で圧倒的な賞賛を浴び、活躍の場を広げる。BISレーベルからリリースしている録音とともに、その演奏は主要音楽誌・新聞等で高く評価されており、今年も欧米各地でのリサイタルの他、T. ソビエフ指揮フィナーレ管弦楽団などの共演を予定している。

Photo: Mark Harrison

期待に応じて進化を続ける シリーズを飾ったピアニスト

ピアノ・エトワール・シリーズは、新鋭ピアニストにとって一流への登竜門。これまで彩の国の音楽ホールに登場したピアニストたちの「その後」の進化も気になるところ。そこで、2010年の活動を中心に、2007-09年度出演者の活躍ぶりをレポートする。

Vol.1

2007.6.17

ラファウ・ブレハッチ

ショパン生誕200年の今年はベルリン、パリ、ウィーンなど、世界の主要都市でコンサートを行ない、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団と録音したショパンの協奏曲のCDが2010年のドイツ・シャルプラッテン批評家賞を受賞。



Photo: 加藤英弘

Vol.2

2007.9.8.

イリヤ・ラシュコフスキー

この9月、豊田市コンサートホールでの「メモリアル・コンポーザー 三大ピアノ協奏曲コンサート」に出演。現在はパリを拠点に研鑽を積んでいる。

Vol.3

2007.11.23

デイヴィッド・グレイルザンマー

ヴェルビエ音楽祭でモーツァルトのソナタ全曲演奏会を行なうなどピアニストとしての活躍もさることながら、ジュネーヴ室内管弦楽団の音楽監督として活躍の場を広げている。11月20日にはエリアフ・インバル指揮東京都交響楽団とサントリーホールにて共演予定。

2007.12.9.



Photo: 加藤英弘

Vol.4

小菅 優

彩の国では「現在シリーズ」で再登場。来年はシリーズ第3弾として10月にリサイタルを予定。今夏のザルツブルク音楽祭ではイーヴォ・ボゴレリッチの代役を、何と開演20時間前に打診され、見事な演奏でそれに応えたことでも話題を呼ぶ。また今年の10月からはベートーヴェンのソナタ全曲演奏会シリーズも開始。

Vol.5

2008.7.5.

コルネリア・ヘルマン

最近ソロの他、ウィーン・フィル・メンバーとの室内楽やクリストフ・ゲンツ(テノール)とのコンサートなどで世界各国にて演奏活動中。11月末から12月にかけて日本ツアーで来日予定。

2008.9.27.

Vol.6

アンドレイ・コロベイニコフ

10月にはアシュケナージ指揮フィルハーモニア管とパリのシャンゼリゼ劇場で共演するなど、ヨーロッパを中心に活躍中。来年6月にはNHK交響楽団オーチャード定期にも登場予定。当劇場出演後には、ミラーレよりスクリャーピン作品集、ベートーヴェンのソナタ集もリリース。

Vol.7

2008.12.13.

北村 朋幹

今春、東京藝術大学に入学。日本各地での演奏会も数多く、意欲的なプログラムが目立つ。また、今年の9月にはシューマン《幻想曲》をメインにしたCDアルバムを録音した。

2009.2.7.

Vol.8

ロマン・デシャルム

昨年、ドイツのAudite classicsよりラヴェル作品集をリリース、今年2月にHMVの連載「鈴木淳史のクラシック妄聴記」でも紹介される。

2009.6.28.

Vol.9

アレクサンダー・ガヴリリュク

今年はロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団やニューヨーク・フィルハーモニックなどと共演。また、TRITONより、アシュケナージ指揮シドニー交響楽団とのプロコフィエフのピアノ協奏曲集もリリース。



Photo: 加藤英弘

2009.9.5.

Vol.10

三浦 友理枝

ショパン生誕200年に合わせ、今年はショパンの《24のプレリュード》をエイベックスからリリース。「レコード芸術」誌の特選盤に選ばれる。またリサイタルのほか、トリオやデュオの公演を日本各地で行なっている。

2009.11.28.

Vol.11

福間 洸太郎

欧米各地で演奏活動を展開しており、2011年1月にはロンドンのウィグモア・ホールで2回目のリサイタルも決定。また、今年は新アルバム「リスト/怒りを込めて他」もevica & accusticよりリリース予定。12月は愛知・碧南市(3日)、東京・津田ホール(14日)でオール・ショパン・リサイタルを行う。

2010.2.20.

Vol.12

フランチェスコ・トリスターノ・シュリメ

ユニバーサル・クラシックス&ジャズと専属契約を結び、来年、ドイツ・グラモフォンからアルバムをリリース予定。このリリースを機に、「フランチェスコ・トリスターノ」(シュリメを省略)として活動。次回の来日は、2011年6月の予定。また、2010/2011シーズンのハンブルク交響楽団レジデント・アーティストに選出された。

Review
2010.9-10

2010.9-10月の彩の国のアーツ



「」の中(振付:KENTARO!!) Photo: Matron

■ DANCE 9月3日~5日

dancetoday2010 伊藤郁女 / KENTARO!!

伊藤郁女、山崎広太らによるトリオ作品は、「忘却」の物語を三人の鍛えられた身体と鋭い感覚性で描き、KENTARO!!と康本雅子のデュオは、個性の違う二人による掛け合いの妙を存分に発揮した。



Photo: 加藤英弘

■ MUSIC 10月2日

NHK交響楽団

埼玉会館恒例のN響公演。今年は現田茂夫の指揮で贈る名曲プログラム。ピアノにイングリット・フリッターを迎えたショパンのピアノ協奏曲第1番は、記念イヤーにふさわしく華やかな音色に包まれた演奏だった。

■ MUSIC

10月24日

エマニュエル・パユ & クリスティアン・リヴェ

世界のトップ・フルーティストのパユと、長年の友人であるギタリストリヴェの共演。フルートとギターのための傑作《タンゴの歴史》では、二人の相性の良さとも相まって、精妙で親密な音色が響き渡った。



Photo: 加藤英弘



Photo: 加藤英弘

■ MUSIC 9月4日

小曾根 真の現在 Vol.1 ソロ×デュオ with 児玉 桃

ジャズとクラシックという、出自の違う二人のピアニストによる新たな試み。即興も入った《春の祭典》は、瞬間に行われる二人の感性のやり取りが刺激にあふれ、まさに一期一会の「ハルサイ」となった。



Photo: 加藤英弘

■ PLAY 10月17日

彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ~国本武春と若手精鋭落語会

浪曲界のカリスマ、国本武春が5年ぶりの登場。独自の三味線奏法と語りによる武春節は更にパワーアップ。毒気の効いた鋭い芸が強烈な個性を放つ桃月庵白酒ら若手精鋭落語家とともに、会場を大いに沸かせた。



Photo: 加藤英弘

■ MUSIC 10月31日

庄司紗矢香 & ジャンルカ・カシオーリ

庄司自身が共演を望んでいた鬼才カシオーリとのオール・ベートーヴェン・プログラム。音楽の方向性がびたりとあった、二人の才気あふれる真摯な演奏はまさに名演。今後も二人のデュオが待ち望まれる。

EVENT CALENDAR

2010.11.15 - 2011.1.31

11	November	15 月 臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場、熊谷会館)
16 火	16 日	
17 水	17 日	
18 木	18 日	
19 金	19 日	
20 土	20 日	
21 日	21 日	
22 月	22 日	
23 火	23 日	
24 水	24 日	
25 木	25 日	
26 金	26 日	
27 土	27 日	MUSIC 光の庭プロムナード・コンサート 秋から冬へ〜万葉節と待降節の音楽を集めて〜 開演 14:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ 出演=早川幸子(オルガン)&小笠原美登(バイオリン) 曲目=J.S. バッハ:「クリスマス・オラトリオ」より「大いなる主、おお強き王よ」ほか ※入場無料
28 日	28 日	
29 月	29 日	
30 火	30 日	
31 水	31 日	
12	December	1 水
2 木	2 日	PLAY 維新派 (後)と旅をする20世紀三部作 #3 「台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき」 開演 19:00 ※詳細は P.7~9 にて
3 金	3 日	PLAY 維新派 (後)と旅をする20世紀三部作 #3 「台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき」 開演 19:00
4 土	4 日	PLAY 維新派 (後)と旅をする20世紀三部作 #3 「台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき」 開演 13:00 / 18:00
5 日	5 日	PLAY 維新派 (後)と旅をする20世紀三部作 #3 「台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき」 開演 13:00 MUSIC ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.14 アレクセイ・ゴルラッチ 開演 15:00 ※詳細は P.16~17 にて
6 月	6 日	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
7 火	7 日	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館)
8 水	8 日	臨時休館日(埼玉会館)
9 木	9 日	
10 金	10 日	CINEMA 彩の国シネマスタジオ「オーケストラ!」 上映時間 10:00 / 13:10 / 16:10 / 19:10 ※詳細は P.21 にて MUSIC 埼玉会館ランチタイム・コンサート 第12回 東京交響楽団メンバーによる金管五重奏 開演 12:10 ※詳細は P.22 にて
11 土	11 日	CINEMA 彩の国シネマスタジオ「オーケストラ!」 上映時間 10:50 / 14:20 / 18:30 ※14:20上映終了後、映画評論家・石子順氏によるアフタートークあり
12 日	12 日	CINEMA 彩の国シネマスタジオ「オーケストラ!」 上映時間 10:50 / 14:20 / 17:30
13 月	13 日	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
14 火	14 日	
15 水	15 日	臨時休館日(熊谷会館)
16 木	16 日	CINEMA 彩の国シネマスタジオ 熊谷会館上映会 優秀映画鑑賞推進事業 A「青い山脈」 B「また逢う日まで」 C「真昼の暗黒」 D「純愛物語」 上映時間 10:20 (B) / 13:30 (A) / 17:20 (C) ※詳細は P.21 にて PLAY さいたまネクスト・シアター第2回公演 「美しきものの伝説」 開演 18:30 ※詳細は P.10~11 にて
17 金	17 日	CINEMA 彩の国シネマスタジオ 熊谷会館上映会 優秀映画鑑賞推進事業 上映時間 10:00 (D) / 13:30 (B) / 16:50 (A) ※13:30上映終了後、映画評論家・石子順氏によるアフタートークあり PLAY さいたまネクスト・シアター第2回公演 「美しきものの伝説」 開演 18:30
18 土	18 日	PLAY さいたまネクスト・シアター第2回公演 「美しきものの伝説」 開演 13:00 / 18:30 MUSIC 光の庭プロムナード・コンサート ~神様からの贈り物~ 開演 14:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ 出演=高橋博子(オルガン)&鶴木絵里(ヴァイオリン) 曲目=アダム:「オー・ホーリー・ナイト」ほか ※入場無料
19 日	19 日	PLAY さいたまネクスト・シアター第2回公演 「美しきものの伝説」 開演 13:00
20 月	20 日	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
21 火	21 日	PLAY さいたまネクスト・シアター第2回公演 「美しきものの伝説」 開演 18:30
22 水	22 日	PLAY さいたまネクスト・シアター第2回公演 「美しきものの伝説」 開演 13:00 / 18:30
23 木	23 日	PLAY さいたまネクスト・シアター第2回公演 「美しきものの伝説」 開演 13:00

24 金	24 日	PLAY さいたまネクスト・シアター第2回公演 「美しきものの伝説」 開演 13:00
25 土	25 日	PLAY さいたまネクスト・シアター第2回公演 「美しきものの伝説」 開演 13:00 / 18:30
26 日	26 日	PLAY さいたまネクスト・シアター第2回公演 「美しきものの伝説」 開演 13:00
27 月	27 日	
28 火	28 日	
29 水	29 日	休館日(彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館)
30 木	30 日	休館日(彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館)
31 金	31 日	休館日(彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館)
1	January	1 土 休館日(彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館)
2 日	2 日	休館日(彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館)
3 月	3 日	休館日(彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館)
4 火	4 日	
5 水	5 日	
6 木	6 日	
7 金	7 日	CINEMA 彩の国シネマスタジオ 優秀映画鑑賞推進事業 A「カルメン故郷に帰る」 B「二十四の瞳」 C「野菊の如き君なりき」 D「喜びも悲しみも幾歳月」 上映時間 10:30(B) / 14:30(A) / 18:00(C) ※詳細は P.21 にて OTHER 劇場体験ツアー 開演 11:00 / 15:00 ※詳細は P.23 にて
8 土	8 日	CINEMA 彩の国シネマスタジオ 優秀映画鑑賞推進事業 上映時間 10:30(D) / 14:30(B) / 18:00(A) MUSIC 埼玉会館ニューイヤー・コンサート 東京交響楽団 開演 15:00 ※詳細は P.14~15 にて OTHER 劇場体験ツアー 開演 11:00 / 15:00
9 日	9 日	CINEMA 彩の国シネマスタジオ 優秀映画鑑賞推進事業 上映時間 10:30(B) / 14:30(C) / 18:00(D) ※14:30上映終了後、映画評論家・田島良一氏によるアフタートークあり OTHER 劇場体験ツアー 開演 11:00 / 15:00
10 月	10 日	CINEMA 彩の国シネマスタジオ 優秀映画鑑賞推進事業 上映時間 10:30(A) / 14:30(D) / 18:00(C) OTHER 劇場体験ツアー 開演 11:00 / 15:00
11 火	11 日	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
12 水	12 日	
13 木	13 日	
14 金	14 日	PLAY 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 〜林家たい平とおすすめ若手落語会 開演 19:00 ※詳細は P.22 にて
15 土	15 日	
16 日	16 日	MUSIC みんなのオルガン講座 受講生発表会 開演 14:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ ※入場無料
17 月	17 日	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場、熊谷会館)
18 火	18 日	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
19 水	19 日	
20 木	20 日	
21 金	21 日	CINEMA 彩の国シネマスタジオ「闇の列車、光の旅」 ※上映時間は決定次第、ホームページ http://saf.or.jp にてお知らせ致します
22 土	22 日	CINEMA 彩の国シネマスタジオ「闇の列車、光の旅」 ※上映時間は決定次第、ホームページ http://saf.or.jp にてお知らせ致します MUSIC ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.15 エフゲニー・スドビン 開演 15:00 ※詳細は P.16~17 にて
23 日	23 日	CINEMA 彩の国シネマスタジオ「闇の列車、光の旅」 ※上映時間は決定次第、ホームページ http://saf.or.jp にてお知らせ致します
24 月	24 日	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
25 火	25 日	
26 水	26 日	
27 木	27 日	
28 金	28 日	
29 土	29 日	DANCE コンドルズ 埼玉公演2011新作 「ロングバケーション」 開演 14:00 / 19:00 ※詳細は P.12~13 にて
30 日	30 日	DANCE コンドルズ 埼玉公演2011新作 「ロングバケーション」 開演 16:00
31 月	31 日	

3才以上のお子さんから楽しんでいただける公演です。光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

前売りチケット発売情報(〜2011.1.15)

MUSIC

埼玉会館ランチタイム・コンサート 第13回 ピアノ・デュオ ドウオール

お昼のひととき、1,000円で気軽に楽しむクラシック。
2月は、初のピアノ・デュオです。

チケット発売日
一般:12月5日(日) メンバーズ:12月4日(土)

日時=2011年2月18日(金) 開演 12:10(終演予定13:00)
会場=埼玉会館 大ホール
出演=藤井隆史 白水芳枝(ピアノ)
曲目=ショパン(グールド&シェフター編曲)
:幻想即興曲(2台ピアノ版)
:ショパン(サミュエルソン編曲)
:子犬のワルツ(2台ピアノ版)ほか
料金=全席指定 1,000円



©Norikatsu Aida

彩の国シネマスタジオ

LINE UP 2010.12-2011.1

【料金】大人一律1,000円/小中高生800円(当日支払いのみ)
※優秀映画鑑賞推進事業は大人・小中高生とも1作品500円
【会場】特に記載のないものは、彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

12月



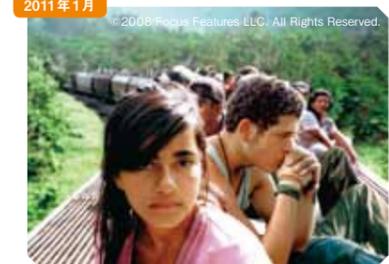
【監督・脚本】
ラデュ・ミヘイレアニ
【出演】
アレクセイ・グシュコフ
メラニー・ロラン
フランソワ・ベルレアン
ミュウ・ミュウ ほか
(2009年/フランス/124分)

『オーケストラ!』

チャイコフスキー、モーツァルト——クラシックの名曲の数々にのせて贈る、
寄せ集めオーケストラが巻き起こす奇跡の物語。

10日(金) 10:00 / 13:10 / 16:10 / 19:10
11日(土) 10:50 / 14:20 / 18:30
12日(日) 10:50 / 14:20 / 17:30
※11日(土) 14:20上映終了後、映画評論家・石子順氏によるアフタートークあり

2011年1月



【監督】キャリー・ジョージ・フクナガ
【出演】
パウリーナ・ガイタン
エドガー・フロレス ほか
(2009年/アメリカ・メキシコ
/96分)

『闇の列車、光の旅』

ホンジュラス、メキシコからアメリカへ——国境を目指す少女と少年のはかなくも美しい
魂の触れ合いに心震える。中南米の“衝撃の真実”を映した、感動のロードムービー。

21日(金)〜23日(日)
※上映時間は決定次第、ホームページ http://saf.or.jp にてお知らせ致します。

優秀映画鑑賞推進事業 ~懐かしの日本映画をワンコインで~

12月熊谷会館上映会



【監督】今井正
【出演】
「青い山脈」(1949年/172分)
原節子 杉葉子
木暮実千代 ほか
「また逢う日まで」
(1950年/109分)
岡田英次 久我美子 ほか
「真昼の暗黒」(1956年/124分)
草薙幸二郎 松山照夫 矢野 宣
牧田正嗣 小林寛 ほか
「純愛物語」(1957年/130分)
江原真二郎 中原ひとみ ほか

A:「青い山脈」 B:「また逢う日まで」
C:「真昼の暗黒」 D:「純愛物語」

近代日本の光と影を情感ゆたかなリアリズムで描いた今井正
——その多彩な作品群から大ヒット作や社会派ドラマを紹介します。

16日(木) 10:20 (B) / 13:30 (A) / 17:20 (C)
17日(金) 10:00 (D) / 13:30 (B) / 16:50 (A)
※17日(金) 13:30上映終了後、映画評論家・石子順氏によるアフタートークあり
【会場】熊谷会館

2011年1月



【監督】木下恵介
【出演】「カルメン故郷に帰る」
(1951年/86分)
高峰秀子 小林トシ子 ほか
「二十四の瞳」
(1954年/156分)
高峰秀子 月丘夢路 ほか
「野菊の如き君なりき」
(1955年/92分)
有田紀子 田中晋二 ほか
「喜びも悲しみも幾歳月」
(1957年/161分)
高峰秀子 佐田啓二 ほか

A:「カルメン故郷に帰る」 B:「二十四の瞳」
C:「野菊の如き君なりき」 D:「喜びも悲しみも幾歳月」

叙情的な作風で多くの観客を魅了した木下恵介監督の作品から、
戦後日本映画の代名詞とも言える珠玉の作品を紹介します。

7日(金) 10:30 (B) / 14:30 (A) / 18:00 (C)
8日(土) 10:30 (D) / 14:30 (B) / 18:00 (A)
9日(日) 10:30 (B) / 14:30 (C) / 18:00 (D)
10日(月・祝) 10:30 (A) / 14:30 (D) / 18:00 (C)
※9日(日) 14:30上映終了後、
映画評論家・田島良一氏による
アフタートークあり

【チケットの購入方法について】

【電話予約】チケットセンター

0570-064-939

10:00 ~ 19:00 (休館日を除く) ※一部携帯電話、PHS、IP電話からは受付できません。

【窓口販売】※休館日を除く
・彩の国さいたま芸術劇場 10:00 ~ 19:00
・埼玉会館 10:00 ~ 19:00 ・熊谷会館 10:00 ~ 17:00

【SAF Online Ticket】
一般発売初日10時より受付開始し、公演前日23:59まで受付いたします。
・財団ホームページ http://www.saf.or.jp
・携帯サイト http://www.saf.or.jp/mobile/
※利用登録が必要です(無料)。



発売中公演情報 (2010.11.15～)

PLAY

維新派 〈彼〉と旅をする20世紀三部作 #3
『台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき』

日時=12月2日(木)～5日(日)
会場=彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
料金=一般:S席5,000円/A席3,000円 メンバース:S席4,500円/A席2,700円
詳細は P.7～9にて

さいたまネクスト・シアター第2回公演

『美しきものの伝説』

日時=12月16日(木)～26日(日)
会場=彩の国さいたま芸術劇場 インサイド・シアター (大ホール内)
料金=一般:3,800円 メンバース:3,500円
※開場は開演の30分前
※大ホール舞台上の特設客席のため、客席及び椅子の形状が通常とは異なりますのでご了承ください。
客席形状が決定次第、ホームページ <http://www.saf.or.jp> にてお知らせ致します。
詳細は P.10～11にて

彩の国さいたま寄席 四季彩亭

～林家たい平とおすすめ若手落語会

日時=2011年1月14日(金) 開演19:00
会場=彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
料金=一般:3,000円 メンバース:2,700円 ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者):2,000円
詳細は下記 PICK UPにて

DANCE

コンドルズ 埼玉公演2011新作

『ロングバケーション』

日時=2011年1月29日(土) 開演14:00/19:00 30日(日) 開演16:00
会場=彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
料金=一般:前売4,500円/当日5,000円 学生:2,500円
メンバース:前売4,050円/当日4,500円
詳細は P.12～13にて

公演詳細は、財団ホームページ

<http://www.saf.or.jp>にて

PICK UP

たい平とたい平おすすめの若手落語家たちが
2011年の初笑いをお届けします!

新春の四季彩亭は好評企画の第二弾! 林家たい平とたい平が自信をもっておすすめする期待の若手落語家による競演会です。教員免許を持ち、親子寄席や学校公演・ワークショップも大好評! ネットラジオではメインパーソナリティーをつとめるなど多方面で活躍中の古今亭菊志ん。長屋滑稽話をものにしようと日々研鑽する傍ら、得意のコンピュータを使っているの広報活動にも力を入れ、落語の楽しさを感じたままに伝える柳家三之助。埼玉県川越市出身で都内の落語会を中心に明るく自分らしい高座で笑いを届ける古今亭志ん八。いずれも魅力的な若手落語家が集まりました。もちろんたい平も高座に上がります。どうぞご期待ください。



林家たい平



古今亭菊志ん 柳家三之助 古今亭志ん八

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
～林家たい平とおすすめ若手落語会

日時: 2011年1月14日(金) 開演19:00
会場: 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
出演: 林家たい平
古今亭菊志ん 柳家三之助 古今亭志ん八
料金: 一般:3,000円 メンバース:2,700円
ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者):2,000円

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.14
アレクセイ・ゴルラッチ

日時=12月5日(日) 開演15:00
会場=彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
料金=一般:正面席3,500円 メンバース:正面席3,150円
※バルコニー席、学生席は予定枚数終了しました
詳細は P.16～17にて

埼玉会館ランチタイム・コンサート

第12回 東京交響楽団メンバーによる金管五重奏

日時=12月10日(金) 開演12:10 (終演予定13:00)
会場=埼玉会館 大ホール
出演=佐藤友紀、大隅雅人(トランペット) ジョナサン・ハミル(ホルン)
荻野昇(トロンボーン) 渡辺功(テューバ)

曲目=もろびとこぞりて、《サウンド・オブ・ミュージック》よりほか
料金=全席指定1,000円

埼玉会館ニューイヤー・コンサート

東京交響楽団 飯森範親(指揮) 森 麻季(ソプラノ) 大谷康子(ヴァイオリン) 中井美穂(司会)

日時=2011年1月8日(土) 開演15:00
会場=埼玉会館 大ホール
料金=一般:S席5,000円/A席4,000円/B席3,000円/学生B席1,500円
メンバース:S席4,500円/A席3,600円/B席2,700円
詳細は P.14～15にて

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.15
エフゲニー・ストピン

日時=2011年1月22日(土) 開演15:00
会場=彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
料金=一般:正面席3,500円 メンバース:正面席3,150円
※バルコニー席、学生席は予定枚数を終了しました
詳細は P.16～17にて

THEATER BRIDGE

NEWS!!

蜷川幸雄芸術監督に文化勲章が授与されました!



10月某日、会見の様子

彩の国さいたま芸術劇場の蜷川幸雄芸術監督に、文化勲章が授与されました。国内外で高く評価されているダイナミックでスケール感あふれる演出、シェイクスピア全作品上演を目指す(彩の国シェイクスピア・シリーズ)などの意欲的な企画、また後進の育成に貢献していることが高い評価を受けました。

海外でも精力的な活動を続ける蜷川芸術監督は、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーの演出家として『リア王』を上演(1999～2000年)、ロンドン・グローブ座のアーティストックディレクターの一人であり、エディンバラ大学の名譽博士号(1992年)、名譽大英勲章第三位(2002年)、Walpoleメダル(2005年)、アメリカのケネディ・センターからのゴールド・メダル(2010年)などを受けています。

キャスト・スタッフ、そして観客の皆さまに支えられて、走り続けることができました。この度の受章は、もう少し仕事を続けろというメッセージと受け止め、今後も頑張りたいと思います。ありがとうございました。 蜷川幸雄

施設利用休止のお知らせ

彩の国さいたま芸術劇場は、2010年10月で開館16年を迎えました。皆さまのご愛顧に深く感謝申し上げます。さて、当劇場におきましては、今後も皆さまに安心して安全に施設をご利用いただくため、ホールの設備等の改修を予定しております。このため、下記の期間、施設のご利用を休止させていただきます。ご不便をおかけしますが、何とぞご理解くださいますようお願い申し上げます。
・大ホール、小ホール 2011年2月1日～7月31日 ・音楽ホール、映像ホール 2011年2月1日～7月14日
・稽古場、練習室 2011年2月1日～6月30日
※改修期間等に変更が生じた場合は、財団ホームページ等でお知らせいたします。
【問合せ先】彩の国さいたま芸術劇場 管理課施設担当 Tel.048-858-5508



ACCESS MAP アクセスマップ

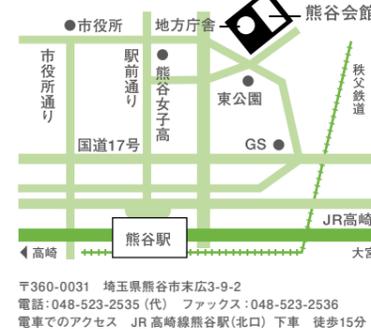
彩の国さいたま芸術劇場



埼玉会館



熊谷会館



※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

THEATER BRIDGE

参加者募集

親子で舞台裏を体感できる「劇場体験ツアー」



Photo: 加藤英弘

「劇場」といえば、お芝居やダンス、音楽を楽しむための場所だと思いませんか? 彩の国さいたま芸術劇場は見て、触れて、感じることのできる劇場です。タネや仕掛けのたくさん詰まった劇場の舞台裏を親子で一緒に体感できるのが、「劇場体験ツアー」です。

お芝居や音楽会に欠かせない、照明や音響、そして舞台装置はどういう風につくられて、どんな風に動くのでしょうか? ツアーではみなさんが実際に手で触れて、動かしてみます。普段はめったに上がるることのできない大ホールの舞台に上れば、客席からは違った劇場の面白さが見えてくるはず! きっと新しい発見がありますよ。

【日時】2011年1月7日(金)～1月10日(月・祝) 各日開演11:00/15:00
※開場は各回ともに開演の30分前
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール 【対象】小学生とその保護者
※原則として未就学児童のご参加はご遠慮ください(有料託児サービスあり)。※小学3年生未満のお子さまには必ず保護者がご同伴ください。※親子で一緒にお楽しみいただくツアーです。高学年のお子さまの場合でも、できるだけ保護者の方が一緒にご参加ください。※車椅子をご使用のお客様は事前に劇場までご連絡ください。
【定員】各回30名(申込み多数の場合は抽選)
【料金】500円(子ども・大人共通/当日精算のみ)

◎申込み方法
申込み用紙(財団ホームページ <http://www.saf.or.jp> からダウンロードできます)に必要事項をご記入の上、郵送またはFAXいただくか、彩の国さいたま芸術劇場窓口にてお申込みください。当選者のみ参加証の発送をもって抽選結果の発表にかえさせていただきます(12月上旬発送予定)。
【申込み締切】11月30日(火)必着
【申込み先】〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1
(財)埼玉芸術文化振興財団「劇場体験ツアー係」 Fax. 048-858-5515
【問合せ先】彩の国さいたま芸術劇場 Tel.048-858-5500

■サポーター会員

(財) 埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、蛭川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが(財) 埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

(株) 与野フードセンター / (株) 亀屋 / 武州ガス(株) / (株) 松本商会 / (有) 香山壽夫建築研究所 / 埼玉新聞社 / (株) テレビ埼玉ミュージック / 埼玉りそな銀行 / (株) パシフィックアートセンター / アサヒ印刷(株) / FM NACK5 / 東京電力(株) 埼玉支店 / 東京ガス(株) / カヤバ システム マシナリー(株) / (株) タムロン / (株) 十万石ふくさや / 森平舞台機構(株) / 日本データコム(株) / (株) ビルメン / 東芝ライテック(株) / 埼玉トヨタ自動車(株) / (有) 齋賀設計工務 / ゲレツツ・ジャパン・スズゼン(株) / 武蔵野銀行 / 浦和ロイヤルバインズホテル / (株) アルピーノ / 国際照明(株) / (株) サイサン 会長 川本宜彦 / 三国コカ・コーラボトリング(株) / 埼玉スバル自動車(株) / 桶本興業(株) / (株) 佐伯紙工所 / (株) 太陽商工 / (株) しまむら / アイジャパン(株) / (有) 六辻ゴルフセンター / 不動開発(株) / ビストロ やま / 埼玉縣信用金庫 / (株) 栗原運輸 / 彩の国SPグループ / (有) プラネット / 関東自動車(株) / (株) クマクラ / (株) デサン / (株) 中島運輸 / セントラル自動車技研(株) / (株) アズマン / 丸美屋食品工業(株) / ポラスグループ / ひがし歯科 / (株) 日産サティオ埼玉 / 埼玉トヨペット(株) / 公認会計士 宮原敏夫事務所 / (株) 価値総合研究所 / (株) 埼玉交通 / 医療法人 顕正会 蓮田病院 / (株) ウイズネット / サイデン化学(株) / アイル・コーポレーション(株) / 五光印刷(株) / 旭ビル管理(株) / ヤマハサウンドシステム(株) / (株) エヌテックサービス / (株) クリーン工房 / (株) つばめタクシー / (株) サンワックス / (株) 総合舞台 / (株) タクトコーポレーション / 広総業(株) / (財) さいたま住宅検査センター / (株) コマーム / 相川 宗一 / (株) 国大セミナー / (株) NEWSエンターテインメント / (株) オーガス / イープラス

H22.10.15現在 / 一部未掲載

【問合せ先】 (財) 埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507

劇場に集う、劇場で動く

第3回 音響プランナー【技術スタッフ】

彩の国さいたま芸術劇場の音楽ホールは客席数604のほどよい広さで室内楽を中心としたコンサートホールとして、演奏者に絶大の信頼を得ている。もちろん設計上の特性もあるが、ホールに響く「ナマ音」を調整、管理し、音楽家が気持ちよく演奏できる環境を整えるのは、劇場付きの技術スタッフの仕事だ。

開館以来、当劇場の音響を担当してきた^{（山）}山海隆弘は、「いい音とは何か」を一生かけて追求したいと、この道に入った。当時は、アナログのオーディオが流行った時代、「何回聴いても飽きない、いい音」を探して何度も録り直し、ミックスダウン(別々に録音した音を、音量・音質を調整し、ひとつにまとめる作業)を繰り返した。そして、ライブレコーディングに出合う。ライブはまさに1回勝負、「(録り直すのではなく)一瞬一瞬の、瞬間的に出てくる音」に惹かれ、関心はライブ(舞台)での音に移っていく。

この劇場では、音楽のほかに演劇、ダンスの公演が主体だが、例えばダンスであっても、すでに録音された音源そのままを固定のスピーカーから流すわけではない。特に海外のカンパニーは、舞台の奥行き、間口も考え、音の出し方を工夫して立体的な、奥行きのある音響空間を大事にしているという。

「重低音の地を這うような音は観客の体を揺さぶるように、またどこからともなく聞こえて来る音楽は天上から降り注ぐように、そして存在感のある音楽はそこに熱い演奏者がいるように工夫します」

そこには、山海がライブの音の世界で学んだ経験が生きている。音楽ホールでは、楽器の位置によって音が散ってしまい、どこに実体があるのか、イメージが散漫になったりすることがある。弾いているピアノそのものからも音がきっちり聞こえ、かつ、まわりからもいい響きを感じられるように楽器の配置をアドバイスすることもある。

「あんまりいじくりまわすと音はかえって悪くなります。料理と同じで、素材をどう生かすかということでしょう。録音にしても、録ったあとに、機械で音を加工するのではなく、まずは演奏

家がいちばんいい状態で演奏できる環境をつくって、いいポイントにマイクをぼんとおけば、それだけで魂の入った音が録れるはず」

演劇の場合はどうか。例えば、あらかじめ録音してスピーカーを通して語られる役者の「影の声」も、あたかも本当に舞台裏や奥から、生の役者が台詞を発しているように聞こえるように、録音時も雰囲気作りに気を配り、また再生時はスピーカーの配置なども工夫して、演出に添えている。

「音響はその舞台になじんで出てくるのがいい。出しやばり過ぎると、なんであんな音を出してと言われます。いい音が出ていると、お客さんは、いい芝居だった、いいダンスだったと評して、音のことは言いません。それでいいんです。僕らはあくまで裏方ですから」

最後に「皆さんに、ナマの音、自然界にあふれるアナログの音に耳を傾けてほしい。今は、誰でも簡単にデジタルで音を加工することができるけれども、どんなデジタル処理をすればいいのか、どんなデジタルサウンドが心地いいのか、それはナマの音を知ってこそわかるんです」と山海は結ぶ。

舞台芸術の基本はナマの舞台であり、ナマの楽器から出てくる音、ナマの俳優が発する台詞の声、彩の国さいたま芸術劇場で「ナマ」に出会ってほしい。



ローザスの「Zeitung」(2009年11月)では、ダンサーがピアノの生演奏にあわせて踊る。客席にピアノの音がきちんと届くよう、舞台上部にマイクを仕込んでスピーカーで流すのだが、自然に聞こえるように音量や音のバランス、スピーカーの配置を工夫している。